

52年ぶりに再発見！ 長沢芦雪の幻の名作「大黒天図」が福田美術館に加わる

『蘆雪名画選』（恩賜京都博物館編、1937年）に掲載され、その後、「近世異端の芸術—若冲・蕭白・芦雪」展(新宿・小田急百貨店、1971年)で展示された後行方が分からなくなっていた長沢芦雪の作品「大黒天図」が、52年ぶりに再発見されました。この度、本作品を福田美術館が入手したことをご報告します。

本作品は2023年10月18日(水)から福田美術館・嵯峨嵐山文華館を会場として開催する展覧会「ゼロからわかる江戸絵画—あ！若冲、お！北斎、わぁ！芦雪—」で公開されます。本展を前に、貴メディアにて情報掲載をご検討いただきたく、お願い申し上げます。

幻の作品「大黒天図」とは？

本作品は日本美術史の第一人者である辻惟雄（つじのぶお）氏が『奇想の系譜』の中で取り上げた代表作の一つで、研究者だけでなく一般読者にも知られていた作品です。和歌山県田辺市の旧家に伝わったもので、芦雪が和歌山県に滞在した天明6年（1786）10月頃から翌7年2月の間に描いたとされます。**サイズ**は同時期に描いた「寒山拾得図」（田辺市・高山寺）とほぼ同じサイズの縦164.2cm×横98.6cmで、和歌山滞在中に描いた作品の中では最大級の掛け軸です。



【作品データ】

作品名：長沢芦雪《大黒天図》

制作年：天明6年（1786）

～天明7年（1787）

サイズ：縦164.2cm×横98.6cm

紙本墨画 軸装1点

“『奇想の系譜』出版後は、本作の所在がわからなくなったため、辻氏をはじめ多くの研究者が探し続けていました。本作品の再発見は芦雪の代表作品が一点追加されるということだけでなく、芦雪研究の進展に寄与するという点でも大変意義深いことです。”

（「福田美術館」学芸課長 岡田秀之のコメント）

本件に関するお問合せ ※学芸員へのご取材希望も承ります。

「福田美術館」広報事務局（共同ピーアール内）

担当：田中、樋口、神 TEL：03-6264-2045 Email：fukudamuseum-pr@kyodo-pr.co.jp